

このまちの100年

「鳥取」

戦国時代、久松山に鳥取城が築かれ、江戸初期に城下町が整備されました。明治期に入ると鳥取県の県庁所在地となり行政の中心地に。鳥取砂丘は明治期に名所として知られるようになり、戦後、観光地として発展しました。



昭和5年頃

鳥取と南にある若桜町を結ぶ若桜街道。奥に見える山は、かつて鳥取城があった久松山



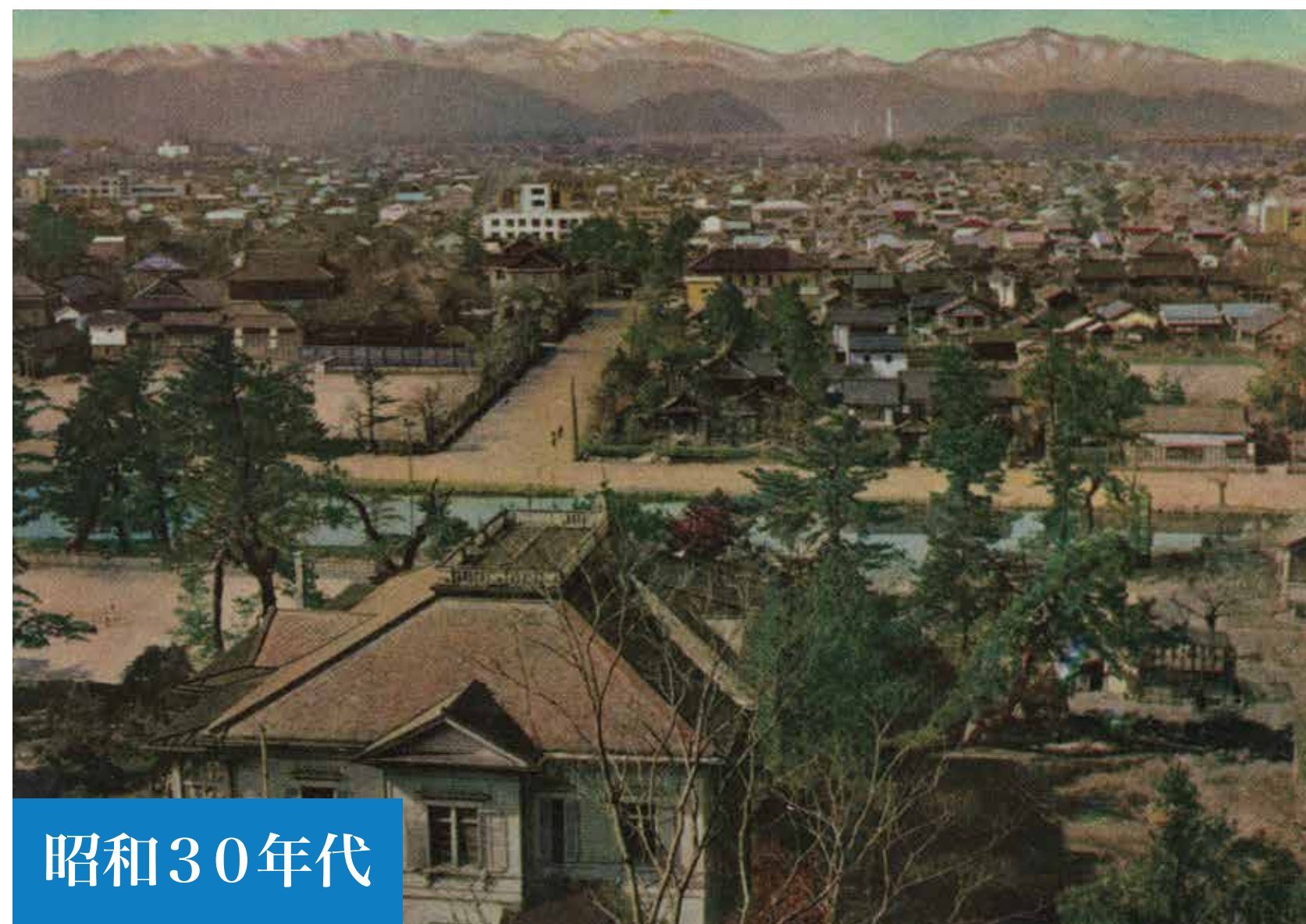
昭和10年頃

千代川の支流、袋川の堤防で花見を楽しむ人々



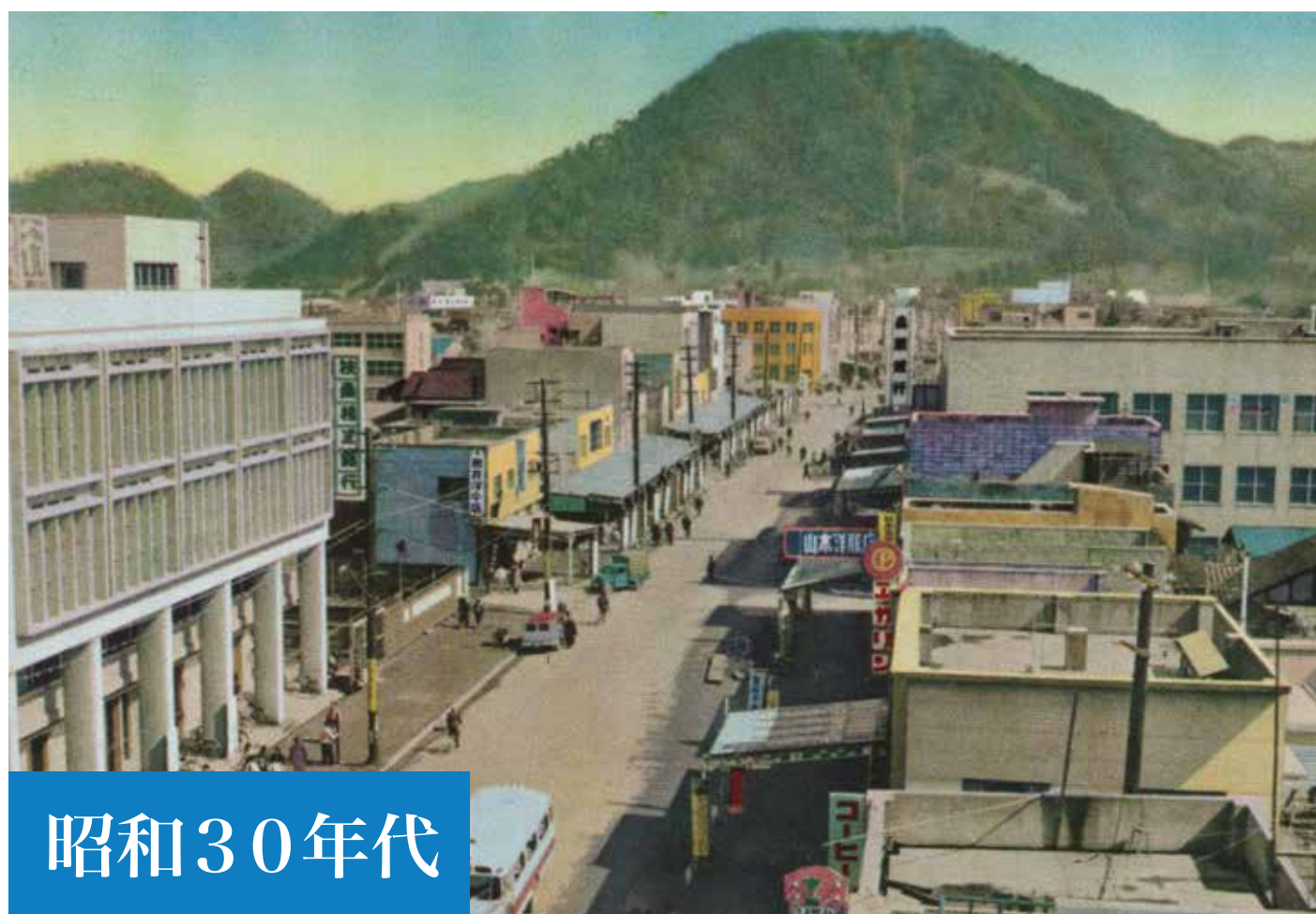
昭和10年頃

ロバの引くそりに乗って鳥取砂丘を観光する人々



昭和30年代

鳥取城三階櫓跡から望む鳥取市街。手前の洋館は明治40年築の仁風閣。昭和24年から昭和47年までは鳥取県立科学博物館となっていた



昭和30年代

昭和27年の鳥取大火からの復興の際、若桜街道沿いは全国初の防火建築帯として整備された



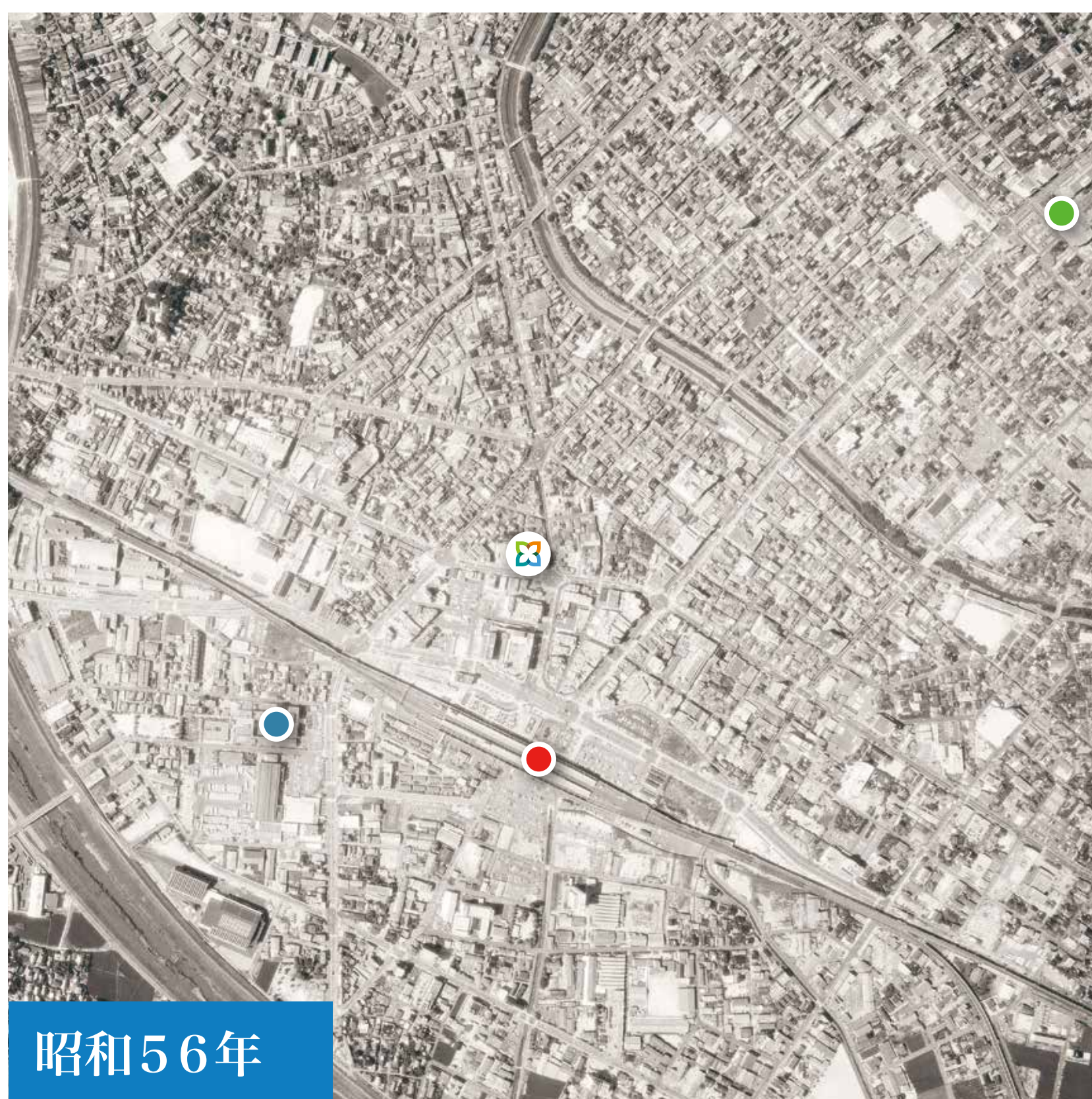
昭和40年頃

昭和38年に完成した砂丘観光リフトの乗り場が設けられていた鳥取砂丘センター

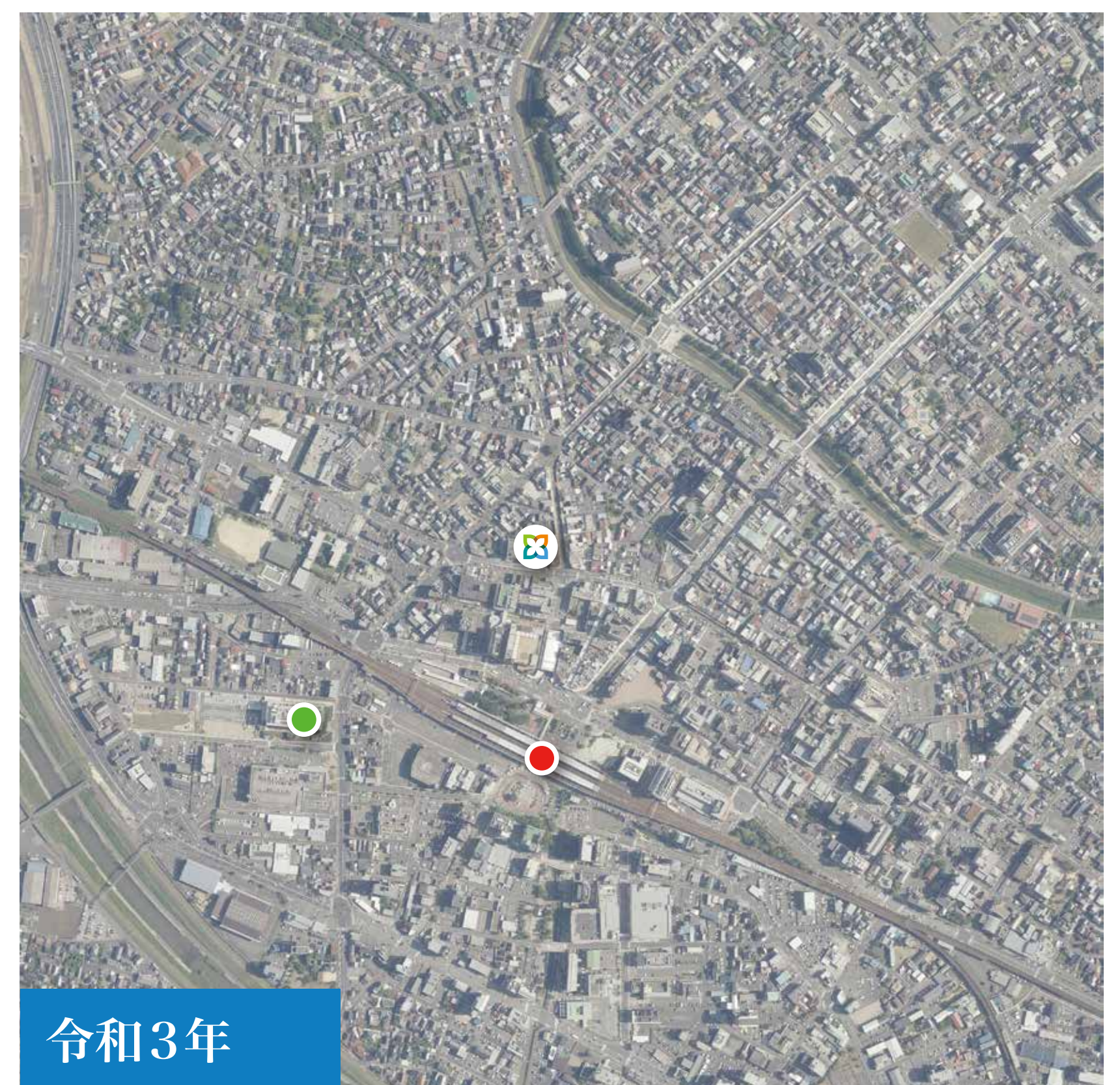
上空からみた鳥取エリア



昭和23年



昭和56年



令和3年

📍：現在地
●：鳥取市民病院／鳥取市立病院 ●：鳥取市役所 ●：鳥取駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」（一部加工）

編集：株式会社コロマチ